

**越谷市地域福祉計画に係る
団体・学生ヒアリング
報 告 書
(速報版)**

令和6年11月

越谷市

目次

I	調査の概要	2
1	調査の目的	2
2	調査対象	2
3	調査期間	2
4	調査方法	2
5	実施日時、参加団体及び参加者数	3
6	当日のプログラム概要	4
7	報告書のみかた	5
II	各回の結果	8
1	団体ヒアリング	8
2	学生ヒアリング	25
III	結果の分析	34
1	概要	34

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第4次越谷市地域福祉計画、地域福祉活動計画（計画期間：令和8年度～令和12年度）」を策定するにあたり、計画の基礎資料として、福祉関係団体や学生の方々の意見を把握することを目的として実施しました。

2 調査対象

- （1）地域で活動する団体 39団体
- （2）市内または県内の大学 3大学

3 調査期間

- ・令和6年9月～同年10月

4 調査方法

- ・対面によるヒアリングと参加者による意見出し（付せんに入力）

5 実施日時、参加団体及び参加者数

日時	参加団体
9月13日(金) 09:30~10:00	埼玉東萌短期大学
9月13日(金) 13:30~14:30	越谷地区保護司会越谷支部会
9月26日(木) 10:00~12:00	埼玉県立大学 文教大学
9月26日(木)① 14:00~15:00	ふれあいサロン野中のバラ ふれあいサロンひまわり ふれあいサロン銀杏 立野自治会 蒲生東町自治会 伊原新田自治会 鷺越自治会 新方地区民生委員・児童委員協議会
9月26日(木)② 15:20~16:20	にこにこサロン ほのぼのクラブ 増林地区支え合い会議 弥栄町二丁目自治会 弥栄町三丁目自治会 森西川自治会 鯛之島自治会 桜井地区民生委員・児童委員協議会 増林地区民生委員・児童委員協議会
9月26日(木)③ 16:40~17:40	6丁目話咲サロン 自死遺族分かち合い支えあいの会おおきな木 東五あじさいサロン 桜井笑顔の会 西方シティハウス自治会 中町西自治会
9月27日(金) 10:30~11:30	NPO 法人越谷らるご
9月27日(金) 13:00~13:30	越谷地区更生保護女性会
10月1日(火) 15:00~16:00	生活自立相談「よりそい」
10月3日(木)① 14:00~15:00	介護者の会朝顔 居宅介護支援事業所げんき コープみらい越谷介護センター 合同会社ムーブオン応援プラン 地域包括支援センター大袋 船渡ふるとね会
10月3日(木)② 15:20~16:20	点字はなみずき ホープサロンリンク NPO 法人視覚障がい者支援協会・ひかりの森 社会福祉法人埼玉福祉会神明苑
10月3日(木)③ 16:40~17:40	子育てサロン-オリヴィエ- NPO 法人ファミリーリンク越谷

※順不同

6 当日のプログラム概要

- ・福祉関係団体対象のプログラムは以下の内容となっています。
(所要時間は 1 時間)

- 1 はじめに (本日の目的)
- 2 第 4 次越谷市地域福祉計画について
- 3 アンケートの結果 一部紹介
- 4 意見交換
テーマ①「地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織」
テーマ②「今後連携・協力関係を深めたい団体や組織」
テーマ③「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた (あったらいいなと感じた) もの」

- ・埼玉東萌短期大学対象のプログラムは以下の内容となっています。
(所要時間は 30 分)

- 1 はじめに (本日の目的)
- 2 第 4 次越谷市地域福祉計画について
- 3 市内の大学生たちによる地域活動・ボランティア活動のご紹介
- 4 アンケートの結果紹介
- 5 意見交換 (グループワーク)
テーマ①「地域やボランティア団体、NPO などで活動したこと、ある？」
テーマ②「どんなきっかけや条件があれば、活動を楽しめそう？
(参加できそう?)」

- ・埼玉県立大学・文教大学対象のプログラムは以下の内容となっています。
(所要時間は 2 時間)

- 1 はじめに (本日の目的)
- 2 越谷市について
- 3 第 4 次越谷市地域福祉計画について
- 4 市内の大学生による地域活動・ボランティア活動のご紹介
- 5 アンケートの結果 (速報版) 紹介
- 6 意見交換 (グループワーク)
テーマ①「～これまで・今・ミライ…自分にとって支えやサポートになったもの、ミライにあったらいいなとおもうこと」
テーマ②「地域やボランティア・NPO での活動について」

7 報告書のみかた

- 意見の内容は、原則として、参加者自身の発言や付箋に記入された意見等の文章表現をそのまま記録しています。
- 参加者が記入した内容について、(趣旨を変えない範囲で)一部誤字脱字等を修正したり、趣旨が分かりやすい様に加筆したり、正式名称に書き直していることがあります。

Ⅱ 各回の結果

Ⅱ 各回の結果

1 団体ヒアリング

団体ヒアリングで出された意見・アイディアの一覧表は次の通りです。

（参考） ※再掲

（所要時間は 1 時間）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 はじめに（本日の目的）2 第 4 次越谷市地域福祉計画について3 アンケートの結果 一部紹介4 意見交換 <p>テーマ①「地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織」</p> <p>テーマ②「今後連携・協力関係を深めたい団体や組織」</p> <p>テーマ③「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」</p> |
|---|

1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織

役所・社協関係	福祉等の専門職・関係者
・越谷市 ・越谷市保健所 ・ハローワーク ・社協 ・生活自立相談「よりそい」 ・越谷地区更生保護女性会 ・さいたま保護観察所 ・埼玉県春日部保健所	・更生保護女性会 ・埼玉県保護司会連合会 ・さいたま保護観察所 ・埼玉県観察保護協会 ・埼玉県就労支援事業者機構 ・更生保護法人 清心寮 ・埼玉県保護司功保会
地域関係（自治会・学校等）	その他
・PTA ・小中学校 ・自治会としては大学と連携 ・越谷アルファーズ ・民生委員、児童委員	・警察・消防 ・埼玉更生保護地域連携拠点事業 ・駅（東武、JR） …市内8か所の駅で周知・PRのためのビラ配り

2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織

役所・社協関係	福祉等の専門職・関係者
・越谷市 （県の埼玉更生保護地域連携拠点事業は、越谷市が県内初！） ・社協の「地域支援コーディネーター」 （地域内の連携の輪を広げている）	
地域関係（自治会・学校等）	その他（民間・企業）
・高校 ・大学	・レイクタウン（⇔吉川市はイオンと協力している） ・駅（現在は、駅での周知活動の協力に対して感謝状を提供） ・住居関係を支援してくれる企業・ボランティアなど （現在は、当事者の知り合いやボランティア精神の高い企業が住居をあっせんしている）

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

仕事

- ・再犯防止には、仕事と住まいが大事
- ・仕事はあるが、当事者とのマッチングが難しい（現在は、ハローワークを利用し、合う仕事を見つけている）

収入

- ・仕事を始めると生活保護からはずれることがあり、働かなくて良いと思う気持ちも出る。就労意欲↓

贖罪（しょくざい・罪を償う）

- ・贖罪プログラムの実施（現在、行っている）
- …ご本人や家族が償っていく。被害者に謝ってお詫びしたくても会うことができない、または時間が経った後に金銭的な賠償を家族が代わって負担することもある。
- …プログラムを実施することで、本人の更生につながる（被害者への償いになり、犯罪への罪の意識が芽生える）

住まい

- ・住まいは比較的確保しやすい（引受人が住環境を支援する）
- ・火事を出して焼き出された際に、市が一時的な住まいを提供してくれたことがあった

当事者の家族への支援

- ・当事者の家族の問題についても相談を受ける
 - 直接関わることは禁止されているが、支援に「つないで」いくことはできるのではないかな
- ・相談内容で、保護司では対応できないことはネットワークを活用して専門的なところに相談したり行政が対応したり

当事者や家族の抱えている課題の解決支援

- ・障がいなどの困難を抱えている場合がある（例：知的障害があり、性犯罪を犯して、医療少年院に行ったケース）
 - …親が本人の障がいを認知していなかったことが背景にあった→障害者手帳をとり、親に説明を行った。
- ・身体と精神の両方の障がいを持っていたケースがあった
 - 清掃の仕事に就いた。仕事に毎日行きたくない日もあるため、勤務は4日に調整した。

地域とのつながり

- ・入学式や卒業式・運動会に招待されて参加している保護司もいる
- ・再犯防止を社会で理解して受け入れる体制が必要

対象者の変化（多様化している）

- ・（再犯率は約5割となっているが）高齢者は再犯が多い傾向にある（家族からつまはじきにされているなどの背景がある）
- ・若い世代が減っている

1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織	
地域施設	自治会
<u>公民館</u> <u>地区センター</u> <u>地域包括</u> ・地域包括支援センター ⇒ 市役所（包括支援センター）に連絡している ・地域包括と連携している ×サロン	・自治体同士で連携 ・自治会加入率低下している（課題） ・市、支部、自治会、サロンが相互に連携 ・高齢化、自治会加入率、孤独死の課題 ・回覧で意思疎通（自治会） ・自治体の回覧で困りごとを把握している。 回覧は単身高齢者の安否確認にも活用されている
防災組織	その他
・消防、警察	・学校、教育関係 ・ふれあいサロンで収集した情報を自治会と共有している ・民生委員の担当世帯が多くて全て見れない ⇒ ふれあいサロン立ち上げ
2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織	
・ふれあいサロン、民生委員がもっと自治会と協力が必要（自治会の役員が変わる）	

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

情報共有

- ・地域の情報をいかに組織内で共有するかが重要
- ・避難行動要支援という制度を知らない人もいた
- ・情報が必要になったときにどこと連携するか知っていることが重要
- ・内容によって連携できる体制が大切。仕組みを知る
- ・いざという時に連携できる体制づくり

サロン活動

- ・体操教育など身近な活動を開催すること
- ・高齢者の健康も相談も同時に対応できる
- ・身近な相談場所としてサロンを活用していく
- ・たわいもないおしゃべりから相談をキャッチして相談内容をつなげる
- ・活動内容を充実させ、参加者が増えることで、より多くの参加者の声が聞ける
- ・高齢者の情報を吸い上げるためサロンを開始した

要配慮者への対応

- ・要支援者がいると地域・周囲の人に支援可能か確認している
- ・自治会、民生委員は要支援者を把握している
- ・外国人の方への対応

民生委員

- ・地域からの情報がないと動けない ⇒ 情報ください

地域役員の連携

- ・自治会×民生委員×サロン
- ・自治会の役員に民生委員やサロン主催者に入ってもらう
- ・民生委員の守秘義務があるので、なかなか共有が難しいこともある
- ・学校区、自治会、民生委員の担当エリアが入り組んでいる（行政からの情報が抜けるときがある）

1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織

地域包括支援センター・社協・市役所	警察・小学校
・地域包括支援センター ・市役所（生活福祉課など） ・相談内容の案件を担当する行政各課を把握して割り振っている ・生活自立相談「よりそい」 ・社会福祉協議会	・警察（交通安全の関係） ・自治会の子どもの見回り活動で小学校・警察と協力している
専門家	周辺自治体・地域内
・弁護士 ・民生委員 ・児童委員 ・自治会と民生委員と包括支援センターのつながりが重要である	・周辺自治体が協力して、お祭りを企画開催したり、地域のクリーン活動を行っている ・防災団が、高齢世帯の見回り活動等を行っている

2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織

地域包括支援センター	行政
・自治会の高齢化が進んでいるため、地域包括支援センターとの連携を強化したい ・在宅ケアなどの講演を行ってほしい	・困りごとや福祉支援を求めている人は自治会未加入の方が多い ・行政が自治会に加入する重要性について発信してほしい →昔は転入時に自治会加入を呼びかけていた ・自治会外へ地域の情報が届かない ・離婚時のローン問題 →自前で解決できることはやっている ・地域活動を行うにあたり、地域共生推進課と連携したい
	周辺の自治会
	・自治会単位で区切らずに、地域全体で自治会館を使えるようにしたい ・地域全体で見守りを行う

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

<u>これまであった相談</u>	<u>自治会制限なしに地域施設を活用</u>	<u>相談先</u>
・家庭内の介護 ・单身暮らしでの困りごと ・貧困で生活に困っている	・地域全体で会館使える仕組みづくり	・色々な課題に対する相談があるため、相談先が分かるとよい ・町内会に民生委員がない ・町内会に子ども会がない
<u>お金の問題は解決しにくい</u>	<u>気軽に集まれる居場所</u>	<u>自治会の重要性を発信・メリット発信</u>
・生活支援は対応しているが、一人暮らしの高齢者が増えている ・お金に困っている人の対応が必要 ・地域包括支援センターとの連携を強化させ、地域へ周知する。 ・お金の問題は相談先がなく、民生委員でも対応が難しい。 ・单身暮らしやお金関係の悩みを自治会で聞いても解決しにくい ・お金関係などに関しては、民生委員やクラブでは立ち入れないことが多い	・居場所づくり <u>SNS 活用</u> ・LINE を活用して自治会内で情報を共有する ・自治会報を毎月作成したり、オープンチャットを開設するなど、自治会活動の活性化に取り組んでいる	・地域内での班長の役割の重要性を発信し、自治会への加入につなげる ・行政が自治会加入率向上の取組を行う ・自治会加入していない支援が必要な人がいる ・若い層の自治会未加入が課題 ・転入者に自治会のメリットを聞かれるが、これといったメリットを発信できていないため、自治会のメリットを広く PR して加入率の促進を目指す ・自治会役員の後継者が不足している。また、役員のなり手がなく、自治会の存続が心配

1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織		
地域包括支援センター	行政	マンション等住宅の管理組合
・地域包括支援センター →自治会で解決完了できないことは、地域包括支援センターにつながっている。 ・交番の仕事関係から、相談が多い。相談内容は地域包括支援センターや民生委員につながることが多い。	・越谷市役所の地域包括ケア課につながることもある。 ・介護保険加入のため包括につなげた	・マンションの管理組合
民生・児童・福祉委員/サロン		近隣住民
・民生委員 ・福祉推進委員 ・児童委員 ・あじさいサロンでは、介護予防体操や食事会を行っており、普段の活動の中の何気ない会話から、地域住民の困りごとを把握している。		・近所同士で買い物代行を行っている ・住民主体で共助する活動も公募をすると協力者が集まるほど、地域に人材はいる ・地域住民同士の問題であれば、自治会長が間に入ると解決するケースも多い
2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織		
専門家	地域	
・転入時の新居が市の際にあわせて、不動産会社に自治体の加入をPRしてほしい	・地域とのつながりを強化相談していきたい	
自治会	その他	
・自治会×サロンで活動を行いたい	・転入者が増加し、地域の関係が希薄化することで、顔見知りが少なく相談しやすい場合がある	

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

<u>地域コミュニティ</u> ・高齢化が進むと地域のお祭りやイベントが開催できない ・自治会の仕事内容をマニュアル化させ、引継ぎしやすくする ・地域コミュニティへ参画させる方法 ・コミュニティ醸成にはお祭りなどの活動が大切だが、人や資金が必要となる	<u>買い物難民</u> ・町内にスーパーないので買い物難民が増加している ・ささえあいの会の桜井地区のボランティア（30人）が集まり、地域の方の生活支援（買い物支援など）を行っている	<u>サロン</u> ・サロン利用者は自治会加入者多いため、自治会に入っていない人にどのようにサロンの情報を届けるかが課題である
<u>相談・居場所</u> ・相談しにくいことを抱える人が（自死遺族など）が相談できる場所、居場所が必要である。その相談場所の周知も併せて行う。 ・自死家族が相談できる場所継続的に実施していけるようにする必要がある	<u>活動継続</u> ・後継者不足による活動の継続が課題	<u>通院</u> ・病院の付添、車イスの対応が課題 ・足が悪くなったときの手段がない ・敬老会（地域行事）の物品配布世帯が多い ・病院の付添支援は難しい
<u>ちょっとした問題の相談場所不明</u> ・家庭の問題（ささいなこと）があった時、どこに相談したらいいのかわからない ・家の故障などどこに相談したらいいかわからないことがある	<u>空家</u> ・空家が増加しているため、孤独死を無くすための交流会を実施する	

1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織

役所・社協関係	福祉等の専門職・関係者
市役所、保健所、教育センター ※市役所や保健所から紹介を受けることはあるが、こちらからの連絡は多くはない。 ※家庭内の関係性が悪化し、一人暮らしをはじめようとする対象者の方を生活福祉課に案内することはある。 ※教育センター等と不登校支援事業「わくわく体験プロジェクト」を開催	就労のため A 型の就労訓練をはじめ利用者がいるが、本人がしたいと思うと自発的に調べ利用している。 ※本人のリサーチ力は高く、あまりこちらが案内するというかたちではない。結果的に合う・合わないはあるものの、本人が自ら選択し始めるということが重要。
地域関係（自治会・学校等）	その他
学校からの不登校の相談はないものの、フリースクールに通っている子どもの学内の校長と座談会のようなものは開いている。	「連携」というかたちで他機関を紹介するだけでは、当事者にとってはたらい回しと感じてしまうこともある。自団体で対象者の相談を受け止め、ゆっくり丁寧に対話することが重要。

2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織

行政	福祉等の専門職・関係者
前述のとおり、生活保護の利用に至る事例もあるため、情報は常に最新にしていきたい。 本人がひとりで役所等に出向き、手続きを進めていくなかで都度これまでの経緯や自身の状況を窓口で説明するのは負担、例えばワンストップ窓口や本人の状況を把握しているコーディネーターのような人が手続きに同行するような仕組みがあるとよいと思う。 （高齢福祉でいうところの地域包括支援センターのような存在）	
民間・企業	その他
	民生委員児童委員といった地域の方との連携については、あまり地元の人に知られたくないという対象者や家族の思いもあるので慎重にすべきと考える。 また、同級生に会いたくない、学校の近くをとおりたくなかったといった地元を避けたいという方もいるため、例えば自治体間での広域的な連携は有用な側面もある。

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

広報

電話やメールによる相談を受ける。本人からの相談が多いのは、自ら検索して見つけてくるからではないか。

わかりやすいネーミングが相談しやすさに繋がっているのではと感じる。LINEなどSNSを使っただけの相談を受けられるとより使いやすいとは考えているが、現状広報や通信について費用を投じる優先度は高くない。行政が、地域資源として自団体を紹介してもらうのはよいと感じている。

家族会のあり方

広く開放しての開催で予約制を取らず自由に参加できる。新しい方もいらっしゃる。何年かぶりで来る方も多く、自由に参加できる。負担を減らしてあげるよう家族の思いを傾聴することに努めている。

孤立孤独の問題について・行政に求めるもの

孤独感を感じないように居場所（環境）づくりとして、ひとりぼっちとみられることが気にされない社会であるといい。学校での「ぼっち」と呼ばれるが、ひとりだからといって必ずしも何かすべきというわけではない。

引きこもり支援では、（その人との信頼関係の構築のために）付き合うのは気合がいる（長い時間をかけて）。行政は担当者が数年で変わってしまう、中途半端な支援ではむしろ傷つけてしまう。例えば夜間の居場所づくりとしての東横での相談窓口の問題等。孤立孤独や引きこもり支援を行っている団体を応援する方がいいのではと感じる。そういった団体が透明性をもって活動できるのが重要、子ども食堂は良い例ではないか。対象者に声を届けるのは重要、しかしサービスややりたいことの押しつけにならないようにしていかななくてはならない。ほっとりんごにいつか行きたいという相談者の声もある。本人がいつか訪れてみたい、そういう拠点があると良いと思う。

※その他（相談内容の傾向）

県内でも越谷市からの相談件数は一番多い、市内での知名度は高いと感じている。50代以上の相談もあるが、むしろ20～30代からの相談が多く感じる。本人からの相談の場合、第一に自身の話を聞いてほしいというかたちでの相談が多い。親御さんの場合、20代では何とか就労させたい、40～50代では親御さんが自分の気持ちを吐き出す発散に近い相談が主と感じる。

こころの健康支援室ではむしろ本人からの相談は少ない、こころの病気を連想させることが要因か、また親との関係性が悪い世帯だと親が相談した機関は信用ならないとそのあとの本人との接触が難しい場合がある。

らるごも埼玉県疾病対策課が相談支援センターをお願いしているが、「疾病」と付いてしまうと本人も相談しにくい。本人が見つけやすく相談しやすい看板が重要ではないか。

1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織

役所・社協関係	福祉等の専門職・関係者
福祉総務課、公民館 ※各種イベントにあたり市の福祉総務課に相談、情報提供をもらう。 ※地区別（9支部）にミニ集会を開催し、更生保護女性会の活動報告を行い周知している。	地域包括支援センター ※更生保護女性会として個人の相談を受けることは非常に稀であるが、場合によって地域包括支援センターへ相談。 ※左記ミニ集会メンバー 保護司 ※更生保護に係る業務で連携、保護司は対象者のみの支援であるが、逆に更生保護女性会では対象者の家族から相談を受けており、補完する関係性。
地域関係（自治会・学校等）	その他
自治会 ※上記ミニ集会メンバー	

2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織

教育関係	福祉等の専門職・関係者
小中学校のPTA等比較的若い世代のママに加入の案内をしたい。地区によっては関係性があり実施しているが、関わりがない地区ではハードルが高い。	
民間・企業	その他

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

新規活動者の増加

- ・活動メンバーの高齢化、活動を継続していくために新規加入者を集めたい。民生委員や保護司の家族を中心に勧誘している。また、地区によっては学校のPTAと関わりがあるため、比較的若い世代にアプローチしているが、子育てや就労で忙しく加入にまでは至らない。
- ・更生保護の活動に興味を持ち加入したいという大学生の相談があったが、子育て中や既婚者の対応が多い更生保護女性会ではなく、草加市の獨協大学内にあるBBS会を紹介する。越谷市にも文教大学内にかつてはあったが、現在解散。

知名度の向上

- ・更生保護女性会の活動について、知名度が低いと感じる。新規募集をするためにもまずは活動内容の普及啓発をしていきたく、またどういった世代に加入募集を案内するのが効果的か（例えば子育てを終えた世代など）

1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織

役所・社協関係	福祉等の専門職・関係者
市内各福祉分野の関係機関や社会福祉協議会とは内線で連絡とれるなど、情報共有はできており連携は取りやすい環境である。	ごちゃまぜの会に参加し、市内の様々な活動団体や市民活動と関わりをもつよう努めている。 引きこもり支援などでこころの健康支援室と連携。 更生保護の関連で、越谷市と草加市にまたがる連携拠点事業と関わりを持つ。
地域関係（自治会・学校等）	その他
フードバンクや子ども食堂と関わりあり、相談者へ案内するほか、活動場所でよりそいのチラシを置いてもらい普及啓発を行うよう努めているが、そこで見たチラシをきっかけに相談に来るといった事例はない。子ども食堂やフードパントリーは子ども福祉部門と繋がっているため、子ども福祉からの案内で相談者が来ることもある。 お弁当や食事の配給を貰うだけでは交流の機会にならない。例えば、出張相談ブースなどを設けたら需要があるのではないか、潜在的に相談したい方は多くいるのではと感じる。 地区センターでの広報もお願いできないか回っているとのこと。	

2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織

福祉等の専門職・関係者	民間・企業
【本人同意を得るまでの継続的な関わり支援】 引きこもりの方の支援、就労準備事業や自立支援事業として家族から窓口相談を受けるが、本人同意がないと利用に至らない。 ご家族は早くどうかしたいと考え、事業や窓口について情報提供するが、本人にリーチできない。結果、早期発見しても、具体的事業につながらず家族の失望につながってしまうこともある。継続的な支援ができる相談窓口が必要に感じる、本人同意をどう得ていくかそれまでの家族との付き合い方をどうしていくか、そういった支援を行う機関があればと感じる。	ワーカーズコーポが域拠点として機能できないか模索している。 具体的にはワーカーズコーポの作業を一部切り出し福祉就労・中間的就労として紹介できる体制構築を検討。 年金だけでは生活できない高齢者、体調がよければ働ける障がい・傷病者の方、家庭の事情で常勤できない方にちょっとした内職や軽作業をマッチングできる体制があるとよい、常用の仕事やA型作業所で継続した就労が困難であっても、業務を切り取り、そこに行けば少しの作業を得られる、働きやすい場があると良く、地域の法人と連携したいと考えている。本人は働きたいが家庭の事情で就労できない、常用就職はおすすめできない。
行政	その他

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

居住支援

住居問題、年金生活者の高齢者は、孤独死や収入面での保証会社の審査が通りにくい、身体的要因から1階だけしかだめ、洋式トイレが必要など、かなり物件に制限があり入居までの支援に苦慮する。また生活困窮で相談に来る方の多くの問題として、転居を必要としても初期費用が用意できないといった金銭的な問題が多い。高齢者の方はもう少し早めに転居の準備を進めて居れば、多少容易に転居ができたのではと感じることがある。居住支援団体やサポートのある保険パッケージについては、お金のある方なら利用できるという印象で、利用しやすい状況ではない。

相談者の情報格差

生活困窮を克服する種々のノウハウや対応が市民の方に伝わっておらず、情報格差があるのを日々感じている。例えば、税金未納で収納課に分納の相談をするよう投げかけるも、相談したら高額な金額を請求されると思い怖くて相談できない利用者がいる、また親が介護保険料支払っておらず、いざ要介護認定を受けた際サービス負担が10割になってしまい子が負担し苦慮している事例もある。若い方では失業給付の手続きを怠るケースもあり、そういった福祉制度の情報が十分に認知されていないように感じる。

就労支援について

生活困窮者の就労支援については、時間的な余裕がないという特徴がある。自分にあった仕事を見つけて本人の望むような就労状況、スタイルを模索していくには、そもそも選択肢が少ないし、とにかく現金がないため選択を検討する余裕がない。そういった方はこれまで日払いの仕事をしていたことが多く、次の就職も日払い労働を選びがち、次の給与がでるまで待てない、そういった支出サイクルで生活している。食糧支援や社会福祉協議会の貸付にも限界があり、HWの常用就職に結びつきにくい。インターネットで自分で仕事を探してくる方や、訓練するぐらいなら常用就労するよと意欲の高い方も一方ではいる。

子どもの貧困連鎖

アスポートの利用は件数としては上下がないと思われるが、不登校の数は増えてきている。1世帯あたりの子どもの数が多い特徴。不登校をどうにか解決したいという相談もあるが、子ども預かっている場所を探しているように感じる、子どもが家にいるから働きにでられない、そう主張する相談者もいる。家庭環境や生育環境をどう支援していくか、子どもの問題行動を理由に働くことができない世帯をどうしていくか課題。

地域とのつながり支援

生活保護受給者の方は比較的干渉されたくない傾向がある。地域とのつながりを面倒くさいと感じている所感。

なかには、親と子どもが依存関係になってしまっている、子どもには学校やアスポートといった居場所があるが、精神疾患を抱えた親にはどのような居場所を提供できるのかわからない。

重層的支援体制整備事業の活用

当該事業の対象はどうしても複数人を想定しているが、なかには単身だとしても重層の支援対象にした方がよい世帯もいるのではと感じる。支援の経過や終着のあり方の情報共有について、現在世帯の状況がどうなっているのか情報が入らないことがままある。また、支援にあたって本人同意を取ることの難しさがあり、引きこもり支援でも本人が支援を望んでいないケースがある。

新しい支援機関に繋ぐタイミングを図るのが難しい、色々な支援者が介入するのは被支援者にも負担となる。初めから重層担当者が付くようにした方がよいと感じる。金銭問題等の課題が即時に解決できるわけではないため、重層的支援を利用してもらうためにはどうメリットを感じてもらえるかが重要。

その他

債務整理した後どうする、現状整理後もよりそいが担当しているがどういった支援をしていくか捉えにくい。

企業開拓を推進していきたい。派遣会社などと連携し、日払いの問題を断ち切るために、企業開拓をして協力企業を探していくのが重要。

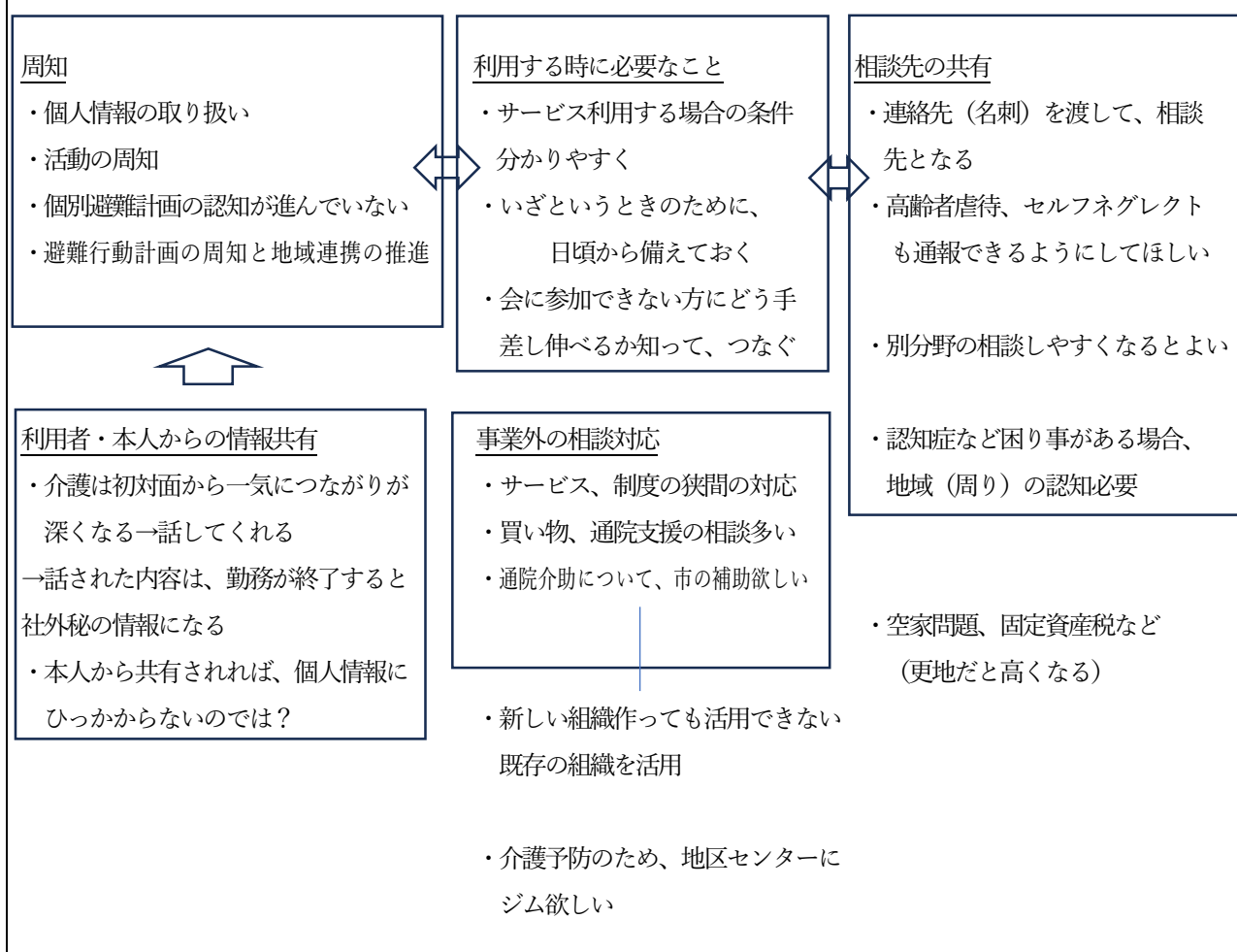
1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織

家の中でのサポート	学生ボランティア
・民生委員、包括 ・社協、桜井笑顔の会 ・家の中での生活サポート（保険適応外）	・埼玉県立大学 学生ボランティア団体 MAGO（学生ボランティアが高齢者と一緒に外出するなどの活動） ・おしゃべり、ランチ ・派遣前に事前に情報共有、検討がされる
・自治会の防災部としても活動→避難の検討のための面談をしている	・商店街 PTA 以外は関わりある

2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織

	専門職
	・専門的な知識がある人とつながりたい ・どこが担当する、どこに相談するか不明瞭

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」



1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織

ボランティア関連の団体など	
・誰もが暮らしやすい生活実行委員会 ・ボラ連 社協に相談している ・ボランティア連絡会、社会福祉協議会	・基本的に内部で片づけるため他団体との連携はあまりない

2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織

自治会	
・回覧板などの情報共有 ・自治会とつながられるような仕組みがあるとよい	

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

<u>利用者</u> ・それぞれに適した生活を、それに合わせて支援を行うべき ・基幹相談支援センター行けない人の支援 ・相談センターに行けない人もいるのではないかな ・アウトリーチできる仕組みサービス、組織、団体など ・システムはあると思うので、それを引き出す団体があるといいのでは	<u>進路・就職</u> ・視覚障害というだけで就労断られる ・個人レベル加算等、判断してほしい ・中学進学時、支援級の子は学校選べない ・支援学級は選択制ができない。普通学級はできるのに
<u>仕事内容</u> ・若手が入らない ↓福祉と民間のコスパを合わせる ・若手の担い手確保、待遇改善 ・民生委員に代わる団体があればいい	<u>担い手</u> ・社協だよりの点訳など視覚障害の方に向けて発信
<u>情報</u>	
<u>発信</u> ・通信をカラー発行できると周知が進む ・マイナ保険証の講習会など情報発信 ・マイナンバーの発行などの講習会などがあると高齢者も安心 ・事業所単位で役所が出張してくれるはず？ ・自治会へ入っていない人への情報共有 ・自治会入ってないと交流できない、交流なくなる →自治会との連携強化	<u>入手</u> ・越谷にどのくらいの視覚障害者がいるのか把握しておきたい ・持ち込んだ点字物がどうなっているかがわからない

1 地域での活動を行う上で、連携・協力関係がある団体や組織

地域の活動団体・社協	自治会・教育センター
・「神社でままマルシェ」が活動のきっかけになった  ・社協を通じてサロンの立ち上げに至った	・新しい自治会（レイクタウンの周辺）自治会の活動支援に関わっている ・市の教育センター ・地区の教育センター
異なる分野の団体	市役所
・障害者の人達の会（イベントのお手伝いがきっかけ） ・できるだけ積極的に出て、足を運ぶようにしている	・市のイベント（お祭り）に参加する

2 今後連携・協力関係を深めたい団体や組織

専門性のある組織	市役所
・活動している団体同士のつながりはあるが・・・（発達などの問題を解決できない）	・教育センターに直接行くのはハードルが高い。→子育てサロンなどの小さな団体が、市とつながるとクッションになれる

3 「地域の中での困りごと等の相談を受けて、相談を解決するために必要と感じた（あったらいいなと感じた）もの」

居場所（イベントも含む）

- ・居場所が少ない（コロナで活動自体が減ってしまった・・・）
 - 室内でも過ごせる所がない
 - 親にとってもおしゃべりや交流の機会になる

情報

- ・“活動に関する情報”が、口コミ中心でしか得られない・・・
- ・同じ立場のママたちが、発信できる機会があると良い
 - 団体が市役所と繋がることで、情報が届きやすくなるのではないかな
- ・イベントも居場所のひとつとして捉えている。
 - 夏休みは親も食事ができるようにした
 - 不登校の相談があった
- ・“クッション（柔らかに受け止める場）”としての相談

2 学生ヒアリング

学生ヒアリングで出された意見・アイデアの一覧表は次の通りです。

(参考) ※再掲

- ・ 埼玉東萌短期大学対象のプログラム（所要時間は 30 分）

- 1 はじめに（本日の目的）
- 2 第 4 次越谷市地域福祉計画について
- 3 市内の大学生たちによる地域活動・ボランティア活動のご紹介
- 4 アンケートの結果紹介
- 5 意見交換（グループワーク）
 - テーマ①「地域やボランティア団体、NPO などで活動したこと、ある？」
 - テーマ②「どんなきっかけや条件があれば、活動を楽しめそう？
（参加できそう？）」

- ・ 埼玉県立大学・文教大学対象のプログラム（所要時間は 2 時間）

- 1 はじめに（本日の目的）
- 2 越谷市について
- 3 第 4 次越谷市地域福祉計画について
- 4 市内の大学生による地域活動・ボランティア活動のご紹介
- 5 アンケートの結果（速報版）紹介
- 6 意見交換（グループワーク）
 - テーマ①「～これまで・今・ミライ…自分にとって支えやサポートになったもの、
ミライにあったらいいなとおもうこと」
 - テーマ②「地域やボランティア・NPO での活動について」

これまでに地域やボランティア・NPO で活動したことは、ありますか？

Yes (→活動の内容、きっかけなど…)	No (→理由・背景など…)
<u>活動の内容</u> ・かがくわくわく広場でのイベント ・子ども向けの講座 ・児童館でのお話し会 ・ジュニアリーダーの育成 ・多世代の交流イベント（盆踊りなど） ・ラジオで絵本の紹介 ・地元のパン屋さんとコラボレーション (←大学の先生がコラボ先を探して開拓した！) <u>活動のきっかけ</u> ・先生からの紹介や学校の掲示板を見て… ⇒SNSは、あまり（きっかけとしては）見ないかも ・内容を見て「楽しそう」と思った ・（保育士の）実習で人前に立つ前に、経験しておきたかった	

どんなきっかけや条件があれば、地域やボランティア・NPOでの活動を 楽しみたい・やってみたいと思えますか？

活動に興味をもてるためのきっかけ（どんな情報・人・場所・モノ etc…が大事？）

人 ・「一緒にやらない？」と誘ったり、誘われたり…お互いに、何に関心あるか知っているから（活動も紹介しやすい）

情報

- ・活動中の写真を撮って、発信している…インスタとかで#関連で流れてきたら、見るかも！
⇒他の団体の情報を、積極的に見ることは少ないかも… InstagramなどのSNSは、「娯楽」としてみるので、文字だけの情報や、
自ら調べないと入手できない情報だと見ない
- ・文字だけでの発信ではなく、写真（活動の様子）がわかると良い。
- ・ボランティアの情報を見るために検索はしない。
→ボランティア情報について市のインスタ等で発信があると見るかも。

場所 ・大学関連や地元関連など、自分の生活圏内のボランティアであると参加しやすい。

活動を実際にやってみる時に「こうだったらいいな～」と思うこと （情報・人・場所・モノ・お金 etc…）

報酬・インセンティブ

・お金が出ないと大変（遠いと負担になる）…お菓子一つでも嬉しい！（気持ちの面で）・お弁当が出るとかも、嬉しい！（助かる）

自分自身のメリット（経験になる）

・自分たちの分野（ex.保育）や好きなコトで活動できること（→自分の経験にもなる）

参加の仕方

・オンラインで参加表明する、という方が気楽かも…（QRを読んでいて、後で書いてもいいから）

人間関係

- ・人間関係は気になる（世代の違いはあまり気にならない…同世代だと、逆に気をつかう面も。でも仲良くなれたら、嬉しい！）
- ・人間関係については、コミュニケーションをとりやすいかどうかが重要。
- ・前提として、友達と参加することが多い。日程が合わない等の理由で1人参加になることはある。

これまで（小学校ごろ～大学生の現在まで）で、自分にとって支えやサポートになったもの（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

身近な人

・家族

学外（地域）

- ・習い事（フルート）
- ・塾
- ・学校の先生（サタデー・スクール）
- ・近所の駄菓子屋（おじいちゃん、おばあちゃん）
- ・習い事（他市）
- ・部活の外部コーチ、教えてくれる地域の人
- ・子ども会、ジュニアリーダーズクラブ

学校

- ・高校の時の隣の席の友人
- ・高校の先生（2 件）
- ・小学校の特別支援学級のボランティア
- ・学校の保健室
- ・中学三年生で同じクラスになった子
- ・友達
- ・学校
- ・学校のカウンセラー室

これまで（小学校ごろ～大学生の現在まで）で、あったらより良かったと思う支えやサポート（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

- ・自治会に入るメリット

これからのミライ（社会人・介護・子育て・趣味等）で、自分にとって支えやサポートとしてあってほしいもの（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

共通の趣味・悩み

- ・多世代と交流できるサークル（音楽系）
- ・サークルやサロンを通じた交流
- ・同じ悩みを持つ人が集まることができる場所

子育て

- ・子育てサポート

介護

- ・介護、早期に相談できる機関
- ・親が要介護の状態になったとき 24 時間相談できる場所

場所

- ・静かな場所
- ・税金、手続きなどについて、教えてくれる場所
- ・制度が分かりやすくなる情報（市役所以外）

意見交換の場

- ・自治会の入らない側の意見交換会

自治会を活用できないか？

これまでに地域やボランティア・NPO で活動したことは、ありますか？

Yes (→活動の内容、きっかけなど…)	No (→理由・背景など…)
・ 特別支援学級でのボランティア (通っていた小学校の先生からの誘いがきっかけ) ・ 不登校の子どもへの学習支援ボランティア (先生からの誘いがきっかけ) ・ ごみゼロ運動 (小学生、参加が当たり前だった) ・ ひきこもりリレートサポーター (大学の授業内の紹介) ・ 中学校 (ジュニアリーダー) →子ども会のイベント企画 (友人からの誘い) ・ 大学からの情報 ・ 「学習支援室」小学生～高校三年生までの学習支援 (友人) ・ 「保育園」子どもと遊ぶ (地元の社協) ・ 「児童館」子どもと遊ぶ、イベント運営 (地元の社協) ・ 他市の事例も！	・ 一人だと不安 (勇気がいる) ・ ボランティアの情報を知らない (→調べなきゃ) ・ 時間がない ◎友達と一緒にだと参加しやすい ◎進んでボランティア情報を検索しない

どんなきっかけや条件があれば、地域やボランティア・NPO での活動を 楽しみたい・やってみたいと思えますか？

活動に興味をもてるためのきっかけ (どんな情報・人・場所・モノ etc…が大事？)

参加のきっかけ

- ・ 自分と関わりのある人 (友人・学校の先生…) からの誘い
- ・ 最初に見学や体験ができる

自分の分野・将来につながる

- ・ 自分の趣味や得意分野の活動内容
- ・ 将来やりたい仕事の人がいるとか、仕事の内容
- ・ 夏休み中は単発で色々

つながり

- ・ 一人でやっても不安にならないようなこと
- ・ 他のボランティアの人と協力してできる活動
- ・ 相談しやすい

その他

- ・ ボランティア同士の交流がある

活動を実際にやってみる時に「こうだったらいいな～」と思うこと (情報・人・場所・モノ・お金 etc…)

場所

- ・ 行きやすい場所 (交通便○)
- ・ 地域ボランティアなら輪に入りやすい
- ・ 自宅から徒歩圏内の活動場所 (10 分ぐらい)
- ・ 家から近い場所 (遠くても交通費が出る) (車で 20 分)

事前情報

- ・ 雰囲気分かる情報 (動画、スケジュールなど)
- ・ 楽しいと思える活動、時間がある
- ・ 写真だと (心理的に) 遠い。
- ・ 一日のスケジュール (・やる内容・場所)

申込み

- ・ 事前予約、連絡なしでも OK
- ・ 大学からのメール
- ・ オンライン

お金 (タイトル)

- ・ お金 (交通費、有償ボラ)

これまで（小学校ごろ～大学生の現在まで）で、自分にとって支えやサポートになったもの（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

場所

- ・児童館（学校終わりに友だちと遊べる）
- ・小学生の時に通ってた学童
- ・地域のスポーツクラブ（親以外の大人と接する機会に）

人（大人・先生）

- ・自分を否定しないでいてくれる友人
- ・隣の優しいおばあちゃん
- ・塾の先生
- ・担任の先生（中学）

仲間

- ・部活動
- ・大学の教授
- ・同じ目的を持つ人たち
- ・あるがままを認めてくれる人

お金

- ・奨学金（大学の費用に充てられた）

これまで（小学校ごろ～大学生の現在まで）で、あったらより良かったと思う支えやサポート（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

体験

- ・児童館での体験活動

お金

- ・受験料減額

自分を認めてくれる人

これからのミライ（社会人・介護・子育て・趣味等）で、自分にとって支えやサポートとしてあってほしいもの（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

情報

- ・結婚前にやったほうがいい情報
- ・制度の情報を分かりやすく

介護

- ・介護のハウツー
- ・送迎つきのデイサービス
- ・遠方の家族・親の介護で安心できるしくみ

保険・契約

- ・良い保険屋の情報
- ・契約の方法

趣味や友人

- ・共通の趣味とかの話ができたりする場
- ・友人

子育て支援

- ・子育てについてのハウツー
- ・夫婦別姓
- ・土日祝日も預かってくれる
- ・子育て支援団体

気軽な相談

- ・気軽に悩みとかを相談できる場

保育所

これまでに地域やボランティア・NPO で活動したことは、ありますか？

Yes (→活動の内容、きっかけなど…)	No (→理由・背景など…)
<u>内容</u> ・夏休み中の小・中学生への学習支援 ・ひきこもりの方への訪問、会話、ゲーム ・ゲートキーパー同士の交流、支え手の悩みを共有する ・コロナ禍での子どもたちの勉強の場を確保、見守り ・部活のボランティア活動（切り絵や校内運動会） ・地域のハロウィンイベントのスタッフ ・プロ試合のチケットもぎりや誘導 ・地域のマルシェに参加して託児をしていた ・放課後等ディサービス（子供たちと遊ぶ） <u>きっかけ</u> 身近な人からの紹介 ・大学からの紹介 ・姉の紹介 ・部活の先輩からの紹介 ・ボランティア団体からの紹介 自分の経験になる ・自分の経験のため	<u>お金がかかる</u> ・近場でやってないとお金もかかるし、行くのが大変 <u>時間がない</u> ・ボランティアにさける時間がない <u>顔が見えない</u> ・どんな人がメンバーなのか分からなくて怖い <u>どう探したらいいかが分からない</u> ・どんなサイトで見つけられるのか、よく分からない ・地元でやろうと思っても、あまり見つからない

**どんなきっかけや条件があれば、地域やボランティア・NPO での活動を
楽しみたい・やってみたいと思えますか？**

活動に興味をもてるためのきっかけ（どんな情報・人・場所・モノ etc…が大事？）

- ・オンラインでの参加ができるもの
- ・所属している団体・居場所と地域の交流・コラボ
- ・住んでいる所から近い活動場所
- ・仲が良い人からの紹介で、一緒に活動できる
- ・信頼できる情報源（市とか学校とか）
- ・近い年代の人が活動している
- ・活動の様子の写真が見たい
- ・同世代の人
- ・単発、短期でできる、都度メンバー募集等

**活動を実際にやってみる時に「こうだったらいいな～」と思うこと
（情報・人・場所・モノ・お金 etc…）**

- ・駅近の場所
- ・ある程度の交通費
- ・活動場所までの交通費
- ・お金（アルバイトの時間を削ってしまう）
- ・新しい参加者も仲間に入れてくれる
- ・参加意向の連絡フォームが設定されて欲しい
- ・ルールの規定（参加率）
- ・内容とかがよく分かると良い（過去の活動についてどんな感じだったのか）
- ・身軽に参加できると良い

これまで（小学校ごろ～大学生の現在まで）で、自分にとって支えやサポートになったもの（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

人

- ・家族（2 件）、友達（3 件）、ネット
- ・親 ・ 祖父母
- ・近所
- ・近所の友達（家に遊びに）

組織

- ・部活（2 件）

イベント

- ・お祭り等の楽しめる行事
- ・図書館でのイベント（読み聞かせ上映会）
- ・神社で町会主催のお祭り

場

- ・公民館（卓球）
- ・図書館
- ・学童
- ・児童館
- ・高校の学習指導室
- ・インターネット全般
- ・公園

情報

- ・経験談
- ・印象談

これまで（小学校ごろ～大学生の現在まで）で、あったらより良かったと思う支えやサポート（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

場

- ・無制限な話し合いの場
- ・自由に過ごせる場所
- ・球技ができる場所（ゴール・コート）
- ・公園の遊具 ・遊び道具の貸し出し
- ・自由に使える屋内スペース
- ・子どもでも気軽に遊べる公園以外の遊べる場所
- ・夜の学食

相談

- ・身近に相談できる相手（学校で）
- ・一人暮らし仲介

組織

- ・部活（もっと交流がしたかった）

助成

- ・自治体による家賃補助

これからのミライ（社会人・介護・子育て・趣味等）で、自分にとって支えやサポートとしてあってほしいもの（人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等）はありますか？

（どんな人・組織・居場所・場所・情報・SNS 等…？）

趣味・ネット

- ・フルダイブ型の生活により身近なネット環境
- （ネットがより身近に生活にとけこむ）

相談

- ・身近に相談できる場所
- ・一人暮らしの仲介人
- （保険や生活費のあれこれを教えてくれる人）

生活

- ・自治体介入による補助（家賃など）

これまでに地域やボランティア・NPO で活動したことは、ありますか？

Yes (→活動の内容、きっかけなど…)	No (→理由・背景など…)
<u>学校のメールで</u> ・災害ボランティア ・家族会の全国連絡会の道案内(大学の学内メールでの紹介) <u>インターネットでの検索</u> ・チャリティサンタ (インターネット) ・NPO のイベント、祭りの手伝い ・自分の勉強になった <u>学校の掲示板</u> ・地域のお祭りの手伝い ・スポーツ大会の補助 ・中学校からの紹介 ・学校の掲示板 <u>学校の単位・レポート</u> ・ボランティア側の大変さ。別視点で知れた ・さいたまマラソンの補助 ・さいたまマラソン給食エリア <u>地域の友だちの紹介</u> ・神社の清掃活動 (きっかけ：回覧板) ・敬老会の手伝い (きっかけ：友人) ・ゴミ拾いマラソン (きっかけ：友人に会う) ・ゴミ拾い (部活の単位) →強制参加	

**どんなきっかけや条件があれば、地域やボランティア・NPO での活動を
楽しみたい・やってみたいと思えますか？**

活動に興味をもてるためのきっかけ (どんな情報・人・場所・モノ etc…が大事?)

<u>人</u> ・友人と一緒に ・友人がいる (会ってみたい人がある)	<u>情報</u> ・学校からの情報 ・SNS や回覧板 ・関わりのある団体からの紹介 ・所属している場所からの案内 ・活動が分かりやすい (活動内容の情報)
<u>場所</u> ・自宅から近い ・近場 ・1 時間以内で駅から近い所	<u>モノ</u> ・気軽に参加できる ・機材が支給される ・活動に必要な道具

**活動を実際にやってみる時に「こうだったらいいな～」と思うこと
(情報・人・場所・モノ・お金 etc…)**

- ・期待され (すぎ) ない
- ・少しばかりのお金
- ・送迎
- ・交通費+お金
- ・交通費を出してくれる
- ・報酬 (単位、お金)、食事や飲み物
- ・ボランティア先の人との交流

Ⅲ 結果の分析

Ⅲ 結果の分析

1 概要

ヒアリングで頂いた内容の中から、主だった意見について、越谷市地域福祉計画の施策体系に合わせて整理しました。

基本目標1「市民の主体的な参画と協働による地域課題の発見・解決を推進します」

- 基本方針(1-1) 「一人ひとりが互いに尊重し合い、地域で活躍できる機会づくり」
- 基本方針(1-2) 「みんながつながりをもてる地域づくり」

<地域や地域福祉に対する関心・近所づきあい>

- ・団体ヒアリング：「(地域の中で身近に) 気軽に集まれる居場所があるとよい。」
- ・団体ヒアリング：「近隣同士で協力し合って、買い物の代行を行っている。」

<地域福祉の担い手・育成>

- ・学生ヒアリング：「自分たちの専攻分野に関する活動や、好きな事や興味のある活動であると、自分自身の経験にもなるので、参加したくなる。」
- ・学生ヒアリング：「活動に参加することで昼食や交通費が出るなど、何かしら有償であると、お金の面だけでなく、気持ちの面でも嬉しいし、参加しやすくなる。」
- ・団体ヒアリング：「住民主体の活動を心がけている。活動に協力してくれる人を、(活動団体の中で集めるだけではなく) 公募すると(思いのほか) 集まる。」

<地域活動団体への参加促進・活動支援>

- ・団体ヒアリング：「自分たちの活動が口コミでしか知られない現状があるため、市と連携してPRできれば、活動に関する情報を必要な人に届けやすくなるのではないか。」
- ・団体ヒアリング：「活動に若い世代の人が参加していない。(次世代の担い手として) 若手の人の参加を確保すると共に、彼らが活動しやすくなる様な改善も必要だと思う。」

基本目標2「適切な支援を受けられるための包括的な支援体制を強化します」

- 基本方針(2-1) 「連携・協働による支援の輪づくり」
- 基本方針(2-2) 「社会的な孤立を防ぎ、支援につなぐ仕組みづくり」
- 基本方針(2-3) 「福祉サービスの更なる充実・向上に向けた環境づくり」

<身近な地域における連携・協働>

- ・団体ヒアリング：「いざという時につながれるような（日頃からの）関係が大事だと思う。」
- ・団体ヒアリング：「高齢化が進んでいるので、地域包括支援センターとの連携を強化したい。」
- ・団体ヒアリング：「活動のPRに地元の駅に協力してもらっている。今後は、商業施設（レイクタウンなど）や地元の企業とも連携していきたい。」
- ・団体ヒアリング：「活動する上では、情報がないとそもそも動く（解決や対応に向けた行動をおこす）ことができないため、（情報は）提供してほしい。」

<支援が必要な人の把握、孤立・孤独の防止>

- ・団体ヒアリング：「支援が必要な人を把握したら、その人たちの住む地域や近隣の人に、（支援が必要な人に対して）何らかの手助けや支援が可能かどうかを確認している。」
- ・団体ヒアリング：「引きこもり支援を行うには、長い時間をかけた付き合いと気合が必要になる。行政主導で行うよりも、孤立・孤独や引きこもりに対する支援を行っている団体を（行政として）支援する方がよいのではないか。」
- ・団体ヒアリング：「生活保護受給者の人は、干渉されたくない、地域とのつながりを面倒に感じる、などの傾向がある印象である。また親子で（相互に）依存関係になっている場合もある。」

<成年後見制度、権利擁護（虐待防止を含む）>

- ・団体ヒアリング：「（犯罪などの）問題を起こす高齢者の中には、家族の中でつまはじきにされている背景があるなどのケースが少なくない。」
- ・団体ヒアリング：「高齢者虐待については、セルフ・ネグレクト※も通報できるようにしてほしい。」
- ・団体ヒアリング：「（支援対象の）当事者が障害などの困難を抱えていて、（結果的に）犯罪などに至っている場合や、親が（子どもである当事者に）障害があることを認知しておらず、障害者手帳を取得していないなどの場合がある。」

※セルフ・ネグレクト…自宅で暮らしている高齢者などが、食事や着替え、病気の治療など、本来であれば生活の中で行なうべき行為をしない、あるいはできないために、心身の安全や健康が脅かされる状態。

<身近な地域での相談>

- 団体ヒアリング：「これまでに受けた相談として、家庭内の介護や単身者の生活上の困り事、貧困で生活に困窮していることなどがある。」
- 団体ヒアリング：「様々な課題の相談を受けるため、（相談を受ける側が）それぞれの課題にあった）相談をその先の支援等につなぐ先が分かるとよい。」

<福祉に関する認知度や情報発信>

- 団体ヒアリング：「LINE なども含めた SNS を活用してはどうか。自治会内でも、LINE を活用して情報共有を行っている。」
- 団体ヒアリング：「自治会に入っていない人も含めた、地域内の情報共有が大事である。」

基本目標 3「一人ひとりがいつまでも自分らしく安全・安心に暮らせる地域をつくります」

- 基本方針(3-1) 「多様な生活課題への支援に向けた体制づくり」
- 基本方針(3-2) 「福祉のまちづくり」

<多様な生活課題への支援>

- ・団体ヒアリング：「単身で世帯でも重層的支援体制整備事業の支援対象となりえる世帯もいる。また、支援にあたっては本人の同意を得ることの難しさがある。」
- ・団体ヒアリング：「重層的支援体制整備事業の支援を利用を進めていくためには、（経済的な問題などの課題が即時に解決できるわけではないため）その事業のメリットをいかに感じてもらうかが重要。」

<再犯防止>

- ・団体ヒアリング：「活動のPRに地元の駅に協力してもらっている。今後は、商業施設（レイクタウンなど）や地元の企業とも連携していきたい。」（※再掲）
- ・団体ヒアリング：「更生保護女性会の知名度が低いと感じる。新規のメンバーを募集するためにも、まずは普及啓発をしていきたい。」

<防災・防犯>

- ・団体ヒアリング：「個別避難計画の周知と地域内の連携を推進する必要がある。」
- ・団体ヒアリング：「地元の防災組織で、（平時からの）高齢者の見回りを行っている。」

<生活しやすい環境づくり>

- ・団体ヒアリング：「町内に買い物ができるスーパーがないので、買い物難民が増えている。」
- ・団体ヒアリング：「足が悪くなった時（歩行困難になった時）の交通手段が必要と感じる。」

<住まいや仕事の支援の充実>

- ・団体ヒアリング：「年金生活者の高齢者は、孤独死や収入面での保証会社の審査が通りにくいことに加え、身体的要因から物件に（トイレや建物の階数などの）制限があり入居までの支援に苦慮する。」
- ・団体ヒアリング：「仕事自体があっても、当事者とのマッチングが難しい。」